

# 環境配慮計画

環境性能とコストのバランスを考慮し、事業として妥当性のある評価となるよう建築・設備・電気の様を決定する。

## 1. 自然エネルギーの利用に配慮した計画

- ① 屋根面や外壁面の断熱性を向上し熱負荷を抑制する。
- ② 庇で、居室への直射日光を抑制する。
- ③ 高断熱 Low-E ガラスを採用し、屋内への熱負荷を低減する。
- ④ 雨水貯留槽の雨水利用を検討し、節水に寄与する。

## 2. 将来の更新性に配慮した建物

- ① 病室に個別分散空調を採用し、部分的な改修に容易に対応する。
- ② 主要な諸室には床荷重に余裕をもたせて、将来的な最新医療機器の導入に耐えられる仕様とする。
- ③ 鉄骨造の採用により大スパンの無柱空間を確保する。
- ④ 屋内の間仕切には乾式工法を採用し将来的なプラン変更にも柔軟に対応できるように配慮する。

## 3. ランニングコストを削減する計画

- ① 人感・照度センサー（トイレなど）を採用し照明制御を行う。
- ② 建物全館で高効率の LED 照明器具を採用する。
- ③ トップランナー変圧器を採用して電気設備の効率を向上させる。
- ④ 空調エリア区分を細分化し各室の利用状況に応じた細かな運転ができるように配慮する。
- ⑤ ポンプ・ファンのインバータ制御により搬送動力を低減する。
- ⑥ 外気導入量可変制御により、外気負荷を低減する。
- ⑦ 節水 / 節湯型衛生器具を積極的に採用して上水利用量を削減する。
- ⑧ 高機能フードの採用により排気量を低減する。

### 1. 自然エネルギーの利用に配慮した計画

### 2. 将来の更新性に配慮した建物

### 3. ランニングコストを削減する計画

